

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えする



本山荘川桜

宗祖親鸞聖人の御誕生850年と立教開宗800年を慶ぶ御法要が間近となりました。

高山地区各組では団体参拝の準備が進められ、帰敬式法座参加者による奉仕団、「子どものつどい in 東本願寺」への参加、そして教区主催の団体参拝の準備も進められています。

コロナ感染がまだ収まらない状況ではありますが、感染防止対策の準備を万全にして、御法要に関わる全ての方が、この度のご縁を慶んでいただけることを心から願います。

また、12年前の宗祖御遠忌法要が、東日本大震災の中「被災者支援のつどい」として開かれたことを想いつつ、今回の慶讃の御法要と、コロナ感染やウクライナでの戦争という世の出来事のそれぞれに想いを馳せながら勤められるということであれば、そこに大切な意義を感じることであります。

■出遇いにおいて開かれる宗

真宗教団連合では、親鸞聖人が『教行信証』を撰述された元仁元年が立教開宗の時であると定められています。この度、立教開宗から800年という時間経過の節目として勤められるわけですが、そのことをご縁として、一人一人に親鸞聖人と同じく浄土真宗が開かれていくことが親鸞聖人から願われているのであり、その願いを確かめる場が開かれるということでしょう。決して「800年を迎えました」と一過的に過ぎ去っていくものとしてしまつては、大事な仏縁を逃すこととなります。

「浄土真宗」の「宗」は一宗派名を指すものでは

ありますが、それ以上に「むね」「かなめ」という意味があります。「真宗宗歌」では「まことのみむね いただきん」とあります。この「まことのみむね」こそ「浄土真宗」であります。それは親鸞聖人が「大無量寿経 真実の教 浄土真宗」としていただかれた「宗」です。その「真実の教」を『教行信証』教巻では、阿難尊者が座より起ち仏陀釈尊に「光顔巍巍とまします」と出遇われたことをもって示されています。親鸞聖人は、このお二人の出遇いの中に浄土真宗の立教開宗を見ておられたのではないのでしょうか。

それは、「去・来・現の仏、仏と仏と相念じたまえり」の憶念の心に学び念仏の教えに立ち帰ることであり、法然上人と親鸞聖人との出遇い、親鸞聖人と唯円房との出遇いによって、証しされてきました。

■人間に開かれた宗

もはや特定の団体としての、器としての宗の話のみならず、浄土真宗が全ての人間に開かれたものであることを、今現に、それぞれがいただいている人間関係の中で確かめられていくことが、この度の御法要の厳修をもって促されています。そこに「南無阿弥陀仏一人と生まれたことの意味をたずねていこう」という言葉が示されてきたとの意義を感じます。

岐阜高山教区のお待ち受け大会で、梶原敬一氏が「真宗の世界は単に宗教的な形ではありません。人間が人間として救われるというところに立った教えです」「人間とは何ぞや」ということに応えるものが、真宗の教えであります」と押さえられたことを、大切に受け止めてまいりたいと思います。

■御法要のお土産は！

御法要には、高山地区では各組で募集される団体参拝として600人あまりの方々にご参拝いた

だきます。暑からず寒からず、春の穏やかな本山参拝旅行となればと思うのですが、それにもまして、このたびの御法要のご縁にあずかる者がお土産として何をもち帰るのでしょうか。

飛騨の報恩講のお齋では、大根やニンジンなど、あえて大きめに切り分けて薄味で調理し出されるなどの話を聞きます。お参りしお齋の席についた者が全て食すのではなく、持ち帰って煮直し、家族でいっしょにいただくことを前提に作られているということです。これは、お齋を通して報恩講にお遇いしたことを家族でシェアするシステムともなっているということです。同じく、この度の御法要にお遇いできたことの感動があれば、自ずとその感動をお伝えしていきたいという心も起こるでしょう。そのことを後押しするために各住職は何をなすべきなのか。御法要まで2カ月ほどではありますが、確かめるには十分に時間はあるだろうと思います。

今月号より「慶讃法要」をテーマに連載をいたします。3月号では内記浄氏(高山二組往還寺住職 宗議会議員)に、4月号から6月号では高山地区教化研究所から3名の方に執筆いただきます。

高山地区各組の団体参拝・奉仕団等日程

- 4月1日 清見組・朝日高根組 教区主催団体参拝
- 4月2日 高山2組団体参拝
- 4月15日 益田組・荘白川組
- 4月28日 高山1組・吉城組
- 4月21～23日 帰敬式法座慶讃法要参拝奉仕団
- 5月5日 子どものつどい in 東本願寺参加

飛騨御坊真宗教化センター 耳なれ雀



★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

第2回企画会議報告 センター第2期に向けて

1月11日、今年度第2回目の企画会議が開催されました。第1回目に引き続き、第2期のセンター体制をどのようなものにしていくかの検討がなされました。今回は各部会の業務負担状況を一覧化した資料を提出し、意見交換がなされましたが、方向性を見出すところまでは至らず、第3回目を2月3日に開催し、引き続き検討を行うことが確認されました。なお、3月中旬(20日院議後を予定)に組長会を開催することも決定されました。

2022年度 聖教学習会 第2回

第2回:2月14日(火)午後1時半～ 講師:マイケル コンウェイ師 テーマ:『安楽集』に学ぶ一時機の自覚 ※先月同封のチラシをご参照ください。

慶讃法要 岐阜高山教区(高山地区)団体参拝

募集

期日:2023年4月1日(土) 定員:先着30名 対象:高山地区内門徒・高山別院門徒 参加費:10,000円 ※各組団体参拝にご参加いただけなかった方にお声がけください。

慶讃法要 子どものつどい in 東本願寺

募集

—であう つながる ともにある— 日時:5月5日(金・祝)午前10時～午後4時(本山内での行事時間) 対象:小学校3年生～中学校3年生 会場:東本願寺 参加費:5,000円



第41回 真宗公開講座 共通テーマ:「立教開宗」とは

期日:2月1日(水)午後2時～ 今年度第4回目となります。 講師:狐野秀存師(大谷専修学院院長) 講題:真宗の生活—安心と法義 会費:500円 主催:大谷専修学院 青草びとの会



僧侶の方のご聴聞(参加)をされる姿が少ないとの声があります。決して、ご門徒さんだけを対象とした場ではありません。寺族の方々も、500円玉一枚持って、是非ともご参加ください。

■在家仏教の課題—同じ大きさで同じ高さで出会う

説かれた法を同じく聞いて、同じことに目覚めて、確かにそうだと確認しあえる場所が僧伽です。僧伽とは、法に目覚めたことにおいて出会う場所になります。

例えば、先生が「2×2=4」だということに目覚めた。目覚めた人が、2×2=4だということを説いた。そして聞いた人が、そうだと。確かに先生の言う通り2×2=4だということが解ったというように、同じことに気がついて出会った場所が僧、僧伽です。ですから、同じことに気づいたという点においては、まさに同じ高さで出会ったということです。

最初に気がついた2×2=4の方が、あとから気がついた2×2=4よりも立派であるとか、価値があるとか、そういうことではありません。同じことに気がついたということは、説いた人も聞いた人も、同じように確認し合い出会うということです。

同時にこのお釈迦様と阿弥陀仏の関係も同じです。「お釈迦様と阿弥陀様と、どちらが偉いのですか」ということはありません。どちらが偉いのか、と考えるのが人間です。それは人間の煩惱による発想です。お釈迦様は阿弥陀仏に目覚めて、釈尊たりえたのですから、お釈迦様は阿弥陀仏抜きに成り立ちません。同時に釈尊が阿弥陀仏の本願に目覚めて、それを南無阿弥陀仏という名告りとして示すことによって、初めて本願は本願として、人々に用きを持つわけですから、どちらが上ということはありません。

仏と法と僧伽ということをとおして、同じことに目覚め確認し合ったということで、それは同じ大きさで同じ高さで出会うということになります。そういうことが仏教の教えの相として、確認されていくということです。

ですから、説いた者が偉くて、それに気がついた者が次に偉いということではなく、あるいは後から聞いて、教えてくれた人に隷属するということでもなく、同じ大きさで同じ高さで出会うという世界が成り立つということが、仏と法と僧ということによって、示されています。我々は、上か下か、損か得かという形で比べてそれで煩惱を起しますが、その私達の中に、同じ大きさで同じ高さで出会うということが開かれていく。これは在家仏教の非常に大きな課題です。

■在家仏教こそが仏教—仏と法と僧ということをとおして、関係を新しく見開いていく

力づくで押さえつけるか、あるいは押さえつけられて我慢して縮こまるか。関係の中に丸ごと身を置くのが在家ですから、その関係に苦しむわけです。どうしてもそういう形でしか出会えない家という煩惱の場所で、同じ大きさで同じ高さで会う、そういう場を開くんだと。そういう、今まで人間の中では予期しなかったような関係が開かれてくるということが、在家仏教の課題だと思います。

在家の身を生きながら、もっとも大変な関係をつくってしまうのが結婚です。結婚はめでたいこととなっていますが、実はその結婚をした日か

ら、相手の関係も自分の関係になってきますから、ややこしい関係がいつに倍に増えるわけです。そういった大変な関係を作っていくわけですが、そういう関係を生きる者が、同じ大きさで同じ高さで出会うという世界をいただいていく、それが在家仏教の大きな課題です。そのことを、仏と法と僧ということ確かめていくということとして、お釈迦様は開かれました。

出家仏教では、家を棄ててその関係を断っていくわけですね。しかし、結局は生きるということは、関係を生きるわけですから断ち切れません。断ちきれないのが関係だし、関係を生きてこそ人間だということで、この関係ということ課題にして、むしろ、出家仏教は在家仏教という本来の仏教に帰すための方便だと転換して見られたのが親鸞です。多くの場合、出家仏教が本来の仏教で、出家に耐えられない者が在家で、おまけなんだという仏教観、仏教史観を転換して、在家仏教こそが仏教だと展開されたのが親鸞聖人だと思います。

仏と法と僧ということをとおして、関係を新しく見開いていく。そういうことを我々は教えていただくんだと。それが三帰依に込められた大事な意味であろうと思います。そのことを真宗では、「同朋」という言葉で表現してきたと言えます。

高山1組 不遠寺住職
企画会議副座長 四衢 亮



『高山市民時報』ミニ法話『響』2月

- 北條 秀樹氏 (高山1組了泉寺住職)
- 旭野 康裕氏 (益田組永養寺住職)
- 三島 大蓮氏 (高山1組真蓮寺住職)
- 宮川 摩耶氏 (高山1組映芳寺衆徒)

web ひだご坊でも「一口法話」配信中!
※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

事務嘱託宮川摩耶 退職のご挨拶

2022年12月31日をもちまして退職いたしました。
約4年半という長い間、みなさまにお世話になりました。教務所で働き始めてすぐに御遠忌があり、あっという間に教区改編となりました。わからないことばかりでたくさんご迷惑おかけしたかもしれませんが、高山地区のみなさまと一緒に学ばせていただき、無事終えられたこと感謝いたします。
退職しても高山地区の寺族なので、これからも変わらずよろしくお願ひします。
※現在のところ後任者が未定のため、何かと迷惑をおかけするかと恐ろしいと思いますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年2月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	水	14:00	☑ 真宗公開講座 (講師: 狐野秀存氏)	御坊会館
2	木	14:00	☑ 伝道部会	研修室
3	金	13:00 14:30	別 三日のご坊 法話: 橋出氏(岐阜高山教区駐在教導) ☑ 企画会議	本堂 研修室
4	土			
5	日	7:00	別 半日華	
6	月			
7	火			
8	水			
9	木			
10	金			
11	土	13:00	別 大谷婦人会定例 法話: 三島多聞氏(輪番) 組 高山2組後期教習 ~13日	御坊会館 本山
12	日			
13	月	7:00 14:00	別 前住上人ご命日 ☑ 伝道部会	本堂 研修室
14	火	13:30	教 聖教学習会② (講師: マイケルコンウェイ氏)	研修室
15	水			
16	木			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
17	金			
18	土			
19	日	13:00	組 帰敬式法座荘白川組研修会	了宗寺
20	月	13:30	☑ 解放推進協議会高山地区輪読会	研修室
21	火			
22	水			
23	木			
24	金			
25	土	14:00	組 帰敬式法座朝日高根組研修会	圓城寺
26	日	7:00	別 半日華	
27	月	13:00 14:00 19:00	別 親鸞聖人お逮夜 ☑ 伝道部会 教 教化研究所	本堂 研修室 研修室
28	火	13:00 15:30	別 親鸞聖人御命日 法話: 小原正寛氏(専念寺副住職) 組 高山1組組会	本堂 研修室

2023年3月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
3	金	13:00	別 嘉念坊善俊上人法要・総会	9	木	13:30	教 坊守会高山支部研修会
6	月	14:00	☑ 真宗公開講座	14	火	9:00	別 おみがき
7	火	13:30	教 聖教学習会③				